

The association between body mass index and recovery from post-traumatic stress disorder  
after the nuclear accident in Fukushima

体格と福島原発事故後の PTSD 症状からの回復との関連

永井 雅人

東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野

福島県立医科大学医学部疫学講座

著者

永井 雅人<sup>1,2</sup>、大平 哲也<sup>2,3</sup>、前田 正治<sup>3,4</sup>、安村 誠司<sup>5</sup>、三浦 至<sup>6</sup>、板垣 俊太郎<sup>6</sup>、針金 まゆみ<sup>3,5</sup>、高瀬 佳苗<sup>3,7</sup>、矢部 博興<sup>6</sup>、坂井 晃<sup>3,8</sup>、神谷 研二<sup>3,9</sup>

1 東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野、2 福島県立医科大学医学部疫学講座、3 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、4 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、5 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、6 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、7 福島県立医科大学看護学部地域・公衆衛生看護学部門、8 福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座、9 広島大学原爆放射線医科学研究所

要約

肥満、特に内臓脂肪の蓄積は様々な代謝異常を引き起こすことが示されています。また、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の者も LDL コレステロールやコルチゾール、TNF- $\alpha$ などのサイトカインが高いことが示されています。したがって、肥満であることが代謝異常を通して、PTSD と関連する可能性が考えられます。そこで本研究では、体格と PTSD 症状からの回復との関連を検討しました。

解析対象者は、福島第一原子力発電所事故によって避難区域に指定された地域の居住者に実施した平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の回答者の内、20~64 歳の PTSD 症状を有し (PTSD チェックリスト: PCL-S $\geq$ 44)、平成 23 年度「健康診査」の受診者、男性: 1,614 人、女性: 2,742 人です。対象者を BMI でやせ (BMI: <18.5 kg/m<sup>2</sup>)、普通体重 (18.5 - <25.0 kg/m<sup>2</sup>)、過体重 (25.0 - <30.0 kg/m<sup>2</sup>)、肥満 ( $\geq$ 30.0 kg/m<sup>2</sup>)に区分し、平成 24 年度および平成 25 年度における PTSD 症状からの回復割合 (PCL-S<44) をポアソン回帰分析より検討しました。

結果、PTSD 症状からの回復割合は平成 24 年度および平成 25 年度において、肥満で低い傾向がありました。普通体重を基準とした時、有病割合 (95%信頼区間) は平成 24 年度および平成 25 年度それぞれやせで 1.08 (0.88-1.33)、1.02 (0.82-1.26)、過体重で 1.00 (0.90-1.11)、0.99 (0.89-1.10)、肥満で 0.85 (0.68-1.06)、0.87 (0.69-1.09)でした。肥満は PTSD 症状からの回復の短~中期的な予測因子として有用な可能性が示唆されました。PTSD を有する肥満の被災者には、より厚い支援と慎重なフォローアップが必要かもしれません。

掲載情報

Scientific Reports (2021 年)

---

Nagai M, Ohira T, Maeda M, Yasumura S, Miura I, Itagaki S, Harigane M, Takase K, Yabe H, Sakai A, Kamiya K  
Scientific Reports. 2021 Mar 5; 11(1): 5330.